第18回アジア太平洋化学工学連合会議

(APCChE2019)

募金趣意書

APCChE2019組織委員会

公益社団法人 化学工学会

ご挨拶

　このたび、公益社団法人化学工学会は**第18回アジア太平洋化学工学連合会議 (APCChE2019)** を2019年9月23日～27日までの5日間にわたって、札幌で開催いたします。この会議はアジア太平洋化学工学連合 (APCChE) が母体となって、主催国の化学工学会の協力のもとに2年ごとにアジア太平洋各地で開催している国際会議です。

　アジア太平洋化学連合 (APCChE) は、アジア太平洋地域の化学連合組織で、加盟団体は14ヶ国の化学工学の学協会であり、現在日本が議長国を務めています。1978年に第1回会議がジャカルタで開催され、2～3年ごとに定例的に開催されてきました。生みの親が京都大学の水科篤郎名誉教授でありわが国にとってもゆかりの深い会議となります。

　今回は**「持続可能な開発目標のための化学工学 (Chemical Engineering for Sustainable Development Goals, SDGs)」**のテーマで実施します。化学工学に関する情報や技術の交換の推進、化学技術者教育の開発とその改善の推進、化学技術者・研究者の交流促進等の成果が期待でき、さらに日本がアジアにおける化学工学分野のセンターとしての位置付けを確立することが期待されております。

　この国際会議の重要性をご理解頂き、日本における第18回アジア太平洋化学工学連合会議を成功させていただきますよう、何卒ご協力、ご支援を賜りますようお願い申しあげます。

2018年6月

第18回アジア太平洋化学連合会議

組織委員会委員長

化学工学会会長　阿尻 雅文

第18回アジア太平洋化学工学連合会議

募金趣意書

Ⅰ　募金計画の趣意

　近年、国際会議の参加登録費は高騰しており、2015年にメルボルンで開催された第16回アジア太平洋化学連合会議は参加登録費が約10万円で、結果として全体で500人規模、日本を除くアジア地域からの参加者は100名に達しませんでした。

　そこで、第18回アジア太平洋化学連合会議は、アジアから参加しやすいよう参加登録費を半額の5–6万円（学生は2万円）とし、各国・地域での行事日程も調査し参加しやすい会期に設定しました。会場費が安く、アジアからの格安航空会社の就航が増え人気の高まっている札幌にて2019年9月に開催を決定しました。30ヶ国から400人以上、日本から1,100人以上、合計で1,500人以上の参加者を見込んでいます。会議開催の準備・運営費用の見込み額は約8400万円です。この費用は参加登録費等で賄うべきですが、ご寄付をいただくことで上記のように参加登録費を抑え、アジア地域から多くの参加者を得て日本のプレゼンスを向上するとともに、国内学生も多数参加できるようにして国際化を促したく考えております。参加登録費以外に、札幌市・北海道の補助費をすでに確保していますし、科学研究費補助金や各種財団への予算申請も進めております。加えまして、会議に協賛される企業及び団体から総額で2,000万円のご援助を頂きたく、募金をお願い申しあげる次第です。

Ⅱ　会議の概要

1. 会議名称

和文名：第18回アジア太平洋化学工学連合会議（APCChE2019）

英文名：The 18th Asian Pacific Confederation of Chemical Engineering Congress

1. 主催

第18回アジア太平洋化学工学連合会議（APCChE2019）組織委員会

1. 後援

公益社団法人化学工学会

1. 協賛

株式会社日本旅行

1. 協力

北海道、札幌市、その他

1. 開催期間

2019年9月23日～27日

1. 開催場所

札幌コンベンションセンター

〒003-0006 札幌市白石区東札幌6条1丁目 1-1

TEL:011-817-1010

FAX:011-820-4300

1. 会議の性格と目的

APCChEは、アジア・太平洋地域において以下を目的として活動しています。

(http://www.apcche.org)。

1. 化学工学研究・教育の促進
2. ケミカルエンジニアの交流
3. 化学工学に関連する情報の交換と共有
4. 化学工学を通したよりよい社会構築への貢献
5. 化学工学国際会議の開催

具体的に、**5)**の国際会議としては第1回APCChE会議を1978年にインドネシア/ジャカルタにて開催して以来、当初3年ごと、その後隔年でAPCChE加盟国において開催してきています。開始当時は100–200名参加の小規模な会議でしたが、3.5日間500–1000名規模まで成長しています。現在、APCChEが所管するアジア地域において、化学工学が関連する産業は成長率が著しく、化学工学およびケミカルエンジアへのニーズはとても高くなっています。一方で、急速な発展は深刻な環境汚染を引き起こし、アジア諸国における持続可能な発展(Sustainable Development)は喫緊の課題となっています。日本の化学工学および化学工学が関連する産業は、持続可能な発展を念頭に活動していて、リーダーシップをとるべき状況にあります。

1. 日本開催にいたる経緯と意義

《経緯》

　この国際会議は、水科篤郎京都大学名誉教授が提唱され、1978年よりアジア各国間の化学技術に関する学術・技術の交流・発展を目指してきました。日本では第10回会議が2004年に北九州で開催されましたが、それ以降、前述のように参加登録費の高騰によりアジアから参加しづらい状況が続いていました。この状況を受け、2015年に我が国へ招致し、2019年に札幌で開催することが決まりました。

《意義》

　このたび、化学工学会（SCEJ）は、「持続可能な開発目標のための化学工学(Chemical Engineering for Sustainable Development Goals, SDGs)」をテーマに第18回APCChE会議を2019年9月23–27日に札幌で開催します。アジア太平洋地域から1500名を超えるケミカルエンジニア(教員、学生、産業人等)が札幌に集結し、SDGsの実現へ向けて、さまざまな観点からの化学工学に関連する研究発表と意見交換を行い、地域を越えた交流の促進が期待されています。特に、参加者の半数近くが学生であるので、高額な参加費と旅費が必要な欧米の国際会議ではなく、ほぼ同じタイムゾーンで交通アクセスの良い日本(札幌)での開催には大きな意味があります。なお、APCChEの会長(2017–2019)は日本の化学工学会から選出されています。またSDGsを提唱している国際連合の機関である国際連合工業開発機関(UNIDO)に協力を依頼する予定です。

1. 会議計画の概要

(1) シンポジウム・セッション構成

(a) Plenary Session: 化学工学全般に関する基調講演

(b) Special Symposium: 特定のテーマに関する分野横断型の特別シンポジウム  
SDGs Forum  
APCChE-UNIDO特別シンポジウム: アジア地域特有の課題解決とSDGsを議論  
APCChE-JACI特別シンポジウム: Green Sustainable Chemistryを議論  
以下に関する部会横断型シンポジウム、など。  
＊Smart manufacturing and digitalization ＊Micro chemical plants  
＊Fluid and particle technology ＊Reaction engineering  
＊Green technology ＊Separations engineering  
＊Supercritical Fluids ＊System, Information and simulation echnologies  
＊Biochemical and food engineering ＊Functional, nano- or smart materials  
＊Business decision making ＊Interfacial phenomena   
＊Chemical plant management ＊Process safety  
＊New energy and energy management ＊Chemical engineering education

(c) 部会Session: 14部会による化学工学の個別技術に関するセッション

(d) Student Program: 学生をエンカレッジする企画  
Students’ SDGs Research Proposal: アジアの学生がローカルな問題に対し調査研究を実施し、課題解決の研究提案を発表。専門家や企業、投資家と出会いの場を提供。

(2) 日程表

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 9月23日(月)  1日目 | 9月24日(火)  2日目 | 9月25日(水)  3日目 | 9月26日(木)  4日目 | 9月27日(金)  5日目 |
| 9:00-10:00 |  | 開会式/ Plenary 1 | Plenary 2 | Plenary 3 | Plenary 4 |
| 10:00-10:30 | Coffee Break | Coffee Break | Coffee Break | Coffee Break |
| 10:30-12:00 | Student program | Sympo/Session  (14会場) | Sympo/Session  (14会場) | Sympo/Session  (14会場) | SDGs Forum  表彰式  閉会式 |
| 12:00-13:30 | Lunch | Lunch | Lunch |  |
| 13:30-15:00 | Sympo/Session  (14会場) | Sympo/Session  (14会場) | Sympo/Session  (14会場) |
| 15:00-15:30 | Coffee Break | Coffee Break | Coffee Break |
| 15:30-17:00 | Registration | Sympo/Session  (14会場) | Sympo/Session  (14会場) | Sympo/Session  (14会場) |
| 17:00-19:00 | Reception | Poster session | Poster session | Congress dinner |

(3) 参加予定国・地域

APCChE（アジア太平洋化学工学連合）は日本の化学工学会(The Society of Chemical Engineers, JAPAN, SCEJ)が発案し、アジア・太平洋諸国へ強く働きかけ1975年に設立された。現在の加盟学会は日本、韓国、中国、台湾、香港、フィリピン、シンガポール、マレーシア、タイ、インドネシア、インド、オーストラリア、ニュージーランド、イランの14学会である。世界には、その他2つの化学工学連合 [インターアメリカ化学工学連合 (IACChE), 欧州化学工学連合(ECCE)]があり、合計3つの化学工学連合が世界化学工学評議会(WCEC)の下で活動をしている(下図参照)。



(4) 参加予定者数

外国参加者　 　400名以上 (加えて、同伴者　50名)

国内参加者　 1,100名以上 (加えて、同伴者　50名)

合計　　　　　1,500名以上 (加えて、同伴者 100名)

(5) 展示

ブース展示　 40

カタログ展示 20

(6) 予算

別紙エクセルシート添付

以上

スポンサー及び会議についての問い合せ先

Website:apcche2019.org

APCChE2019 事務局　老田尚久

〒112-0006 東京都文京区小日向4-6-19

公益社団法人 化学工学会内

e-mail:oida@scej.org

TEL:03-3943-3527

FAX:03-3943-3530

寄付金払込先、払込方法についての問い合せ先

株式会社　日本旅行　国際旅行本部ECP営業部課長　安斉敏明

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-18-19

e-mail:toshiaki\_anzai@nta.co.jp

TEL: 03-5402-6401

FAX: 03-3437-3955